

子ども・教育・文化専門部会会議概要

1 開催状況

第1回専門部会 7月25日（火）15：00～17：00

第2回専門部会 8月1日（火）15：00～17：00

第3回専門部会 8月15日（火）15：00～17：00

2 審議の進め方

第1回専門部会及び第2回専門部会において、当専門部会が担当する分野の施策を個別に審議を行った。その上で、第3回専門部会において、議論を深め、当専門部会としての答申案を取りまとめた。

3 専門部会での委員発言要旨

◇21 それぞれの子どものそれぞれの時期に適した居場所のあるまちをつくる

■施策名称で「それぞれの子どものそれぞれの時期」とあるが、それぞれの子どもは誰を指すのか。⇒障がいの有無や貧困状態等それぞれ置かれた状況が異なるためこのような表現としている。

■教育・保育とあるが、年代的には順序が逆ではないか。⇒文部科学省が発出している言葉の使い方である。

□「すべての子どものそれぞれの時期に適した居場所のあるまちをつくる」が良いのではないか。

■保育所、幼稚園、認定こども園の施設の充実とは何を指すのか⇒待機児童の課題があり、施設の設置、老朽施設の改修などを含めている。

□若年出産・妊娠といった問題を抱えた母親に対し、負の連鎖を断ち切るためのアウトリーチを検討してもらいたい。⇒子育て世代包括支援センターで相談体制を構築したいというねらいがある。福祉の分野で子どもの貧困対策の施策がある。

■政策「子育てが楽しくなるまちづくり」とあるが、当施策でどの取り組みが子育てが楽しくなるねらいがあるのか⇒就学前の教育・保育に必要なサービスの量の確保と質の向上と相談体制の拡充を進めることにより、子育てに対する不安を解消することで、子育てが楽しくなるねらいがある。

□積極的に子育てが楽しくなる、子どもを育てることに幸せを感じることができる施策に取り組んでももらいたい。⇒行政は、課題解決に終始してしまうが、様々な課題があり課題を解決することが優先する。

□特別支援を要する子ども達に対しての取り組みを強化していくという視点が必要ではないか。

■指標で「施設の増設」が進捗の指標になっていないが適切か⇒施設が増えること自体を指標とするのではなく、保育を必要とする子どもを受け入れる体制を整えること

ということで、「保育所待機児童数」を指標としている。

- 就学前の量の充実に対応していることは評価しているが、待機児童解消の取り組みの両輪として施設の充実とともに、「保育士の確保」にも取り組んでもらいたい。
- 子育て世代包括支援センターについては、「支援」に重点が置かれているが、「課題の予防」についても取り組んでもらいたい。
- 取り組みの方針において「本市全体の教育・保育の質の向上を図る」ことを評価するが、柱書きの「必要なサービス」は誤解を招く可能性があるため、修正した方が良いのではないか。

◇22 必要な支援が必要な子どもや保護者に届くまちをつくる

- 就学援助制度は有効な制度だと評価しているが、申請しても該当しない子ども達にも光があたる制度はないのか。
- 児童虐待を発見した場合の「つなぎ」や児童相談所以外の子どもの逃げ場「シェルター」などの文言を入れてはどうか。例えば、「関係機関と連携しながらシェルターの確保に努める」など
- 行政では、支援団体を把握しているか。⇒子ども食堂などを行っている事例は把握しているが、児童虐待については特殊なので、専門的なノウハウを持った団体でしか取り組めないと承知している。
- 子どもが壁にぶつかったときに、寄り添える地域の団体と連携することもある必要ではないか。
- 施策名称について、表現の工夫が必要である。「支援が必要な子どもや保護者に必要な支援が届くまちをつくる」が良い。
- 事業継続に向けた財源の確保に努めるという表記よりも「こどものみらい応援プロジェクト基金」の名称を表記した方がわかりやすい。
- 指標「保育園、認定こども園等への巡回指導、訪問件数」の目標値が 231 件、254 件となっているのはどうしてなのか。⇒基準値から 10%程度の増加を目指すこととした。
- 政策や施策の名称を実感できるよう指標で「子育て支援センターの利用者の満足度」等も考えられるのではないか。

◇23 自ら学び心豊かに成長する子どもを応援するまちをつくる

- 指標「全国学力・学習状況調査における全国平均正答率との差」で中学校数学を取り上げているが、その意図は何か⇒小学校においては、全国平均を上回っている、中学校が最下位となっており、特に数学において全国平均との差が大きい現状となっている。
- 「問題行動等への取り組み行う」が施策名称「自ら学び心豊かに成長する」と整合性が取れないため「心身の健やかな成長」「知・徳・体を育む」等の意味合いを持った前向きで、積極的な表現に修正できないか。
- 問題行動をする子どもに対して「レッテル貼り」ということはないか。先生方には、「レッテル貼り」ではなく、そういった子ども達が話しやすい先生になってもらい

たい。

- 学校全体として人権教育の推進やいじめ防止に対して全職員で課題を共有するとともに、地域の方々を評議員に委嘱し、「チーム学校」として子ども達に寄り添っている。そういったことが、原案から読み取れないので、施策概要に記述してもらいたい。
- ICT教育の充実の意味が分かりづらいため、説明が必要ではないか。⇒電子黒板、タブレットの使い方、情報リテラシー教育、プログラミング教育がありICT教育が重要となっている。
- 指標について、施策名称である「心豊かに」「自ら学び」を実感できる指標の検討が必要でないか。具体的には、「学校生活に満足しているか」など全国学力・学習状況調査において調査されているアンケートの項目から生活質問に関する指標の抽出が検討できないか。
- 既存のデータの中で、施策を図れる指標が別にないか検討願う。

◇24 学校施設の補修・整備をすすめ、安全安心な教育環境があるまちをつくる

- 「老朽化した単独調理場」を小規模給食センターに再編する計画はあるのか。⇒単独調理場は16校あるが、学校施設の改築時期と合わせて再編することとしているため計画が立てにくい。
- 給食センターでのトラブルが起きた事例はあるか。⇒安全管理は徹底されているためトラブルが起きた事例はない。
- 給食センターに関する指標を検討すべきではないか。
- 地震等の災害時において学校が避難場所となるため、防災との関連性はあるか。⇒「災害時の避難拠点としての役割を果たす」と表記されている。
- 那覇市民は、避難場所の確認が徹底されているか。
- オープン教室はどうなっているか。⇒教室と廊下をワークスペースとして一体的に活用されている。以前は、教室が対面する構造だったが、近年は、教室が縦列に配置されて改善されている。

◇25 どこでも誰でも生涯学習ができるまちをつくる

- 「公民館における地域連携・世代間交流事業実施の満足度」を指標として設定しているが、他の施策でも事業の評価などを図ることができるのであれば、満足度などを指標として設定できないか。
- 生涯学習は、固有名詞として習い事のイメージが強いため、政策名称の「生涯学習」を「生涯にわたる学習活動」に変更した方が良い。
- 施策概要において「こどもから青年層を巻き込んだ事業を実施することで、若い世代と高齢者等の世代間交流を促し」とあるが、「こどもから高齢者層を巻き込んだ幅広い世代間交流事業」に変更した方が良い。
- 現状と課題において、「自治会・サークル活動等の停滞、後継者不足、地域の人材が地域で活動できる機会の」とあり、課題と要求されていることが混在しているため、「後継者不足などが問題化されており、地域で～」に変更した方が良い。

- 「次世代への後継者の育成」を「次世代を担う後継者の育成」に変更した方が良い。
- 当施策においては、人材育成がポイントと認識するが、人材育成の効果を図る指標の設定を検討できないか。
- 人材育成を取り組みの柱の前面に出して、それに合わせて指標を設定してはどうか。
- 魅力ある図書館づくりを地域に根差した個々の図書館の地域特性を持たせる等の具体的な方向性を明示してはどうか。各図書館が取り組んできたことを見えるようにしたほうが良い。
- 図書館来館者数が指標では、図書館経営の実態がみえないため、それが見えるような指標を設定してはどうか。
- これからの公民館の在り方は、地域密着型のコミュニティセンターに変化するのではないか。地域の人材を活用した施設の運営の在り方を検討してはどうか。
- 公民館からコミュニティセンターに移行した施設の評価がはっきりとしない。7館の公民館を所有している自治体は稀有な存在なので、生涯学習に力を入れてきたことを評価している。「公民館のコミュニティセンターへの移行」という表現は慎重に扱ったほうが良い。

◇26 どこでも誰でも生涯スポーツができるまちをつくる

- 公園でスポーツ・レクリエーションが盛んに行われている現状があるため、公園行政との連携が必要ではないか。

◇27 学校が学びや育ちの拠点となるまちをつくる

- 学校を拠点とすることを改めて明示し、青少年健全育成やスポーツ・レクリエーションを再掲していることは評価できる。「生涯学習関連事業の充実」についても学校関連部分を抜き出して再掲してはどうか。
- 学校のオープン化、プラットフォーム化については、直接的な表現はないが、意味合いとして包含されているか。

◇28 文化が保存され継承されるまちをつくる

- 現状と課題で「しまくとうばを主に使う人が減少している傾向にある」が、学校現場では、しまくとうば普及冊子を使って普及継承に取り組んでいる現状も表現してもらいたい。
- しまくとうばを文化としてしっかりと定義していかなければ、保存継承は難しいだろう。
- 世界遺産への登録を機運として入館者数が伸びた現状があるのであれば、そのような表現を加えた方が良い。
- 政策で「伝統文化・芸能にふれあい創造する」では、何を創造するのか不明瞭なので、「ふれあい、新たな文化を創造する」に変更した方が良い。

◇29 市民の文化芸術・芸能活動を支援するまちをつくる

- 那覇市民会館は、県民市民の文化活動を披露する大きなステージであった。平成 33

年度に新文化芸術発信拠点を整備する方針であるので、安心している。しっかりと取り組んでもらいたい。

- 「文化芸術活動の多様化等への対応する」を「多様化へ対応する」か「多様化への対応をする」に修正すべきである。
- 「ワークショップ等の様々な取り組みの中で、市民が文化芸術にふれあい、伝統文化の保存・継承・発展に取り組めます。」の「ふれあい」「取り組めます。」2つの文章が一つになっているため、推敲すべきである。